

町野球連盟主催の春季大会は、五月十一日開幕。町営球場二面を利用し、参加四十四チームで熱戦を展開。六月八日には各クラスの決勝戦が行われ、大洋クラブが、(Aクラス)二年ぶりに優勝旗を奪還。Bクラスは役場チームが初

大洋クラブ二年ぶりの優勝 春季野球大会

優勝、秋期大会から待望のAクラス入り。Cクラスはコカコーラ営業所が初優勝、次期大会はBクラス入りを確実にし、一か月にわたって開かれた大会によりやくピリオドが打たれました。

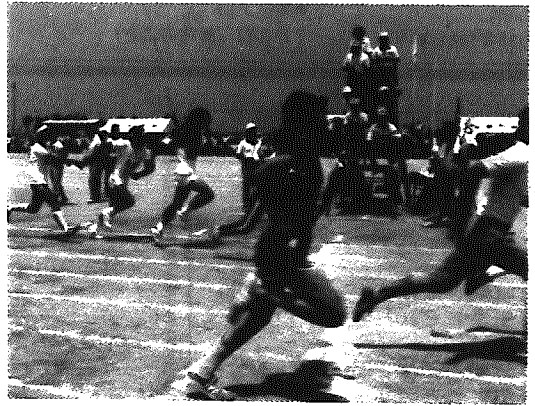
- Aクラス
優勝 大洋クラブ
二位 ブラックライン
三位 アストロ
- Bクラス
優勝 黒埼町役場
二位 吉川生コン(A)
三位 西濃運輸
- Cクラス
優勝 コカコーラ営業所
二位 新潟スバル
三位 新町クラブ

第19回町民大運動会

猛烈なデッドヒート 立仏が一点差で逆転優勝

梅雨とは思えない炎天下、木場小学校グラウンドにおいて、第十九回町民大運動会が華々しく行われました。二千五百人余の老若男女が笑い緊張と躍動の楽しい一日を過ごしました。逆点また逆点の末、一点差で立仏分館に大優勝旗が渡されました。なお、昼休みを利用したアトラクションでは、なごやかに民謡やジュニア体操、少年空手など、チビッ子たちのすばらしい演技に感嘆の拍手が送られ、激烈な闘いの合い間

- 優勝 立仏分館
- 二位 寺地団地分館
- 三位 大野分館
- 四位 山田分館
- 五位 金巻分館
- 六位 黒鳥分館



この写真は、立仏分館の選手が、逆転優勝を成し遂げた瞬間の光景です。

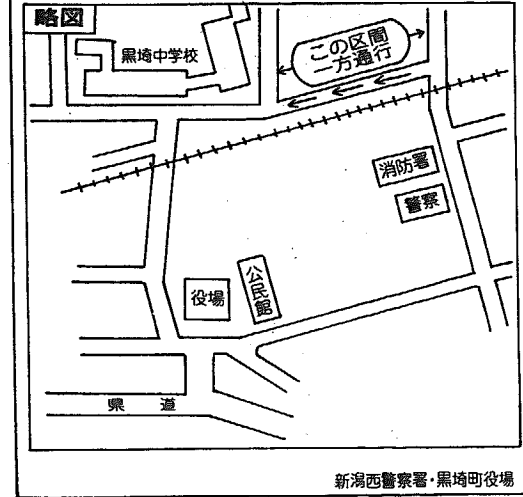
わかりやすくなりました 缶詰の表示



缶詰及びびん詰の製造年月日は、従来、昭和55年3月25日「55:3:25」及び「1980:3:25」という略号表示を認めてきましたが、わかりやすく改めるよう一般消費者等からの要望が出されて、製造年月日

交通規制のお知らせ!!

このことについて、下記の場所が6月16日から終日(一日中)一方通行になりましたので自動車・原付を運転される方はお間違いないようお知らせ致します。

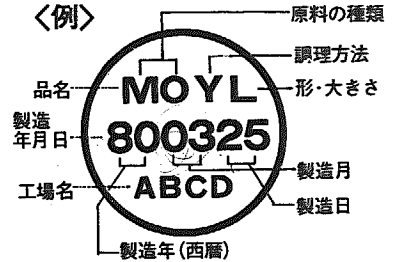


新潟西警察署・黒崎町役場

警察官募集

新潟県では次により警察官を募集しています。
 一 受付締切り 七月十五日(火)
 二 試験日 八月三日(日) 新潟市
 三 受験資格
 (1) 昭和二十八年四月二日から、昭和三十四年四月一日までに生まれた男子。
 (2) 学校教育法による大学(短期大学を除く)を卒業した者、または昭和五十六年三月三十一日までに卒業見込みの者。
 一 問い合わせ先
 くわしいことは、近くの警察署、派出所、駐在所に、おたずね下さい。
 受験申込みの受付もしております。
 一 派出所(7) 2106

<例>



ますが、現在の市場流通商品の切替え完了までには、2年位かかる予定です。この間は新・旧二通りの表示の製品が販売されますので注意しましょう。

消費生活 映写会のお知らせ

確かな生活設計で、明るく楽しい家庭をつくりましょう。消費生活に関する映写会を左記により開催いたしますので、気軽に参加して下さい。

- 七月二十二日 金巻公民館 午後七時三十分
- 七月二十四日 木場公民館 午後七時三十分
- 七月二十五日 山田公民館 午後七時三十分

●母子の消費者教育。
●家族の構図。
●生活を考える。

中元用事業資金 には国民金融 公庫の資金を

今年もいよいよ中元の時期です。中小企業の方々は例年この時期には、買掛金や支払手形、従業員のボーナス資金などのお支払いが多いことと思います。このような資金手当には、国民金融公庫の一般貸付のご利用をおすすめします。融資限度 一五〇万円以内
融資期間 五年以内
返済の方法 月賦
保証人 一名以上

もう一度お確かめ 年賀はがき

昭和五十五年用お年玉つき年賀はがきの賞品の引換えは「七月三十一日」までです。まだ賞品を受け取られていない方は、お早めに最寄りの郵便局の窓口にお申し出ください。なお、二等及び四等のお年玉賞品は、ご希望により年賀はがきのくじ番号の印刷部分を切り離さないで、受領証によってお渡しいておきます。当選番号は次のとおりです。

1等 (コンパクトカメラ)	A組	063102
	A・B通 A共	739122 622727 548146
2等 (ポケットカメラ)	A組	(下5けた)01340
	AB組共通	(下5けた)55111
3等 (手紙セット)	B組通	(下3けた)692
	AB共	(下3けた)577
4等 (お年玉切手シート)	B組通	(下2けた)81
	AB共	(下2けた)61 (下2けた)41

国勢の勢は 情勢の勢

国勢調査の「国勢」を「国の勢い」あるいは「国の勢力」といふように解釈している人が意外に多いといわれます。しかし、それは誤りです。国勢調査という言葉は、もとも英語のセンサス(sense)の訳語ですが、これもすんなり決まったわけではなく、これに落ちつくまでには、さまざまな経過をたどりました。

- 年代順に見てみましょう。
人口取調之法 明治6年
- 人口大検査 明治7年
- 現在人別調 明治15年
- 民口調査 明治22年
- 国勢大調査 明治26年
(または大國勢調査)
- 民勢大調査 明治29年
- 国勢調査 明治29年

このように、初めて「国勢調査」という言葉が登場したのは明治二十六年で、ある学会誌に発表された個人の論文に見られるものです。

一方、半ば公式に使われた最初は明治二十九年で、四人の衆議院議員が提出した「国勢調査執行建議案」がそれです。その後も「民生調査」「人口

調査」など、いろいろ用いられてきたが、明治三十五年、国勢調査に関する法律が成立して、明治六年以来三十年間にわたる「曲折」に終止符を打ったのです。さて、国勢の意味ですが、さきあげた国勢調査執行建議案には、次のように書かれています。

「国勢調査は全国人民の現状(すなわち、男女・年齢・職業、身上の有様)中略につき精細に現実の状況を調査するものにして一たびこの調査を行うときは全国の情勢これを掌上(しようじょう)に見るを得べし」

この建議案から、国勢とは、国の勢いでも国の勢力でもなく、正しくは国の情勢であることがわかります。また、なかには国勢調査を「こくせい調査」とよぶ人もあるようです。しかし、これも情勢のせいですから「こくせい調査」が正しく多勢(たせい)・おおぜい(ぜい)のせいではないということですね。